

5/9 出エジプト記 12 章 21-28 節「あなたとあなたの子孫のために」

小池 宏明 牧師

80 歳になったモーセは、主なる神様の召命に応じて、奴隷として重労働に苦しむイスラエル人の解放のために立ち上がった。これから始まるモーセとエジプト王ファラオとの対決は、主なる神様と偽りの神との対決であると言える。天地万物を創り治めておられる主なる神様と、主が創られた太陽の子孫とされるファラオという偶像との対決である。主はエジプトに災いを下すと共に、ファラオの心を頑(かたく)くにしてイスラエルを解放しないようにされた。それは、主ご自身が、他の偶像の神々と全く違う偉大な方であることを知らしめるためであった。

* 過越の制定の実施

いよいよ、エジプトに対する主の最後のさばきが近づいていた。それは、「エジプト全土の長子がみな死ぬ」というさばきである。しかし、主はこのさばきを過ぎ越すための道を示して下さった。(12 章)これは神様のことばを信じない者にとっては大変な災いだが、神様の約束を信じて門に子羊の血を塗った人々にとっては「救いの時」となった。主はモーセに子羊の血潮による救いを子々孫々まで永遠の掟として守るように命じた。イスラエル民族は、この救いの日を「過ぎ越しの祭り」として、今でも記念しているのである。

* すべての人のための永遠のしるし

私たちは、ファラオのように主なる神様の「敵」になりたくないだろう。しかし、新約時代、使徒パウロは、正直に、自分自身も、あなた方教会も、かつては「神の敵であった」と指摘しているのだ。「あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。」(コロサイ人への手紙 1 章 21-22 節)

私たちは、かつては神様との敵対関係にあったことを、正直に認めよう。そして、今は、救い主イエス・キリストのゆえに、父なる神様との和解がなされていることを感謝しよう。その和解のために、救いのために、神の子羊イエス・キリストの血が流されたことに感謝し、信じる者となろう。そのことを子々孫々まで、永遠に証しする者でありたい。